



Title	類似性と近接性に関する人間の認識能力と「そういう部分で」の多義性
Author(s)	中田, 一志
Citation	日本語・日本文化. 2001, 27, p. 31-53
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/12787
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

<研究論文>

類似性と近接性に関する人間の認識能力と 「そういう部分で」の多義性

中田 一志

1. 「そういう部分で」

最近「そういう部分で」という表現をよく聞く。注意して聞いていると不思議な振る舞いをするに気がついた。以下はこの語句の解明を試みたものである。

この語句を形態素解析してみると、副詞的な指示詞「そう」を含む連体詞「そういう」、名詞「部分」と格助詞「で」に分けられる。「そういう」は既に発した語句を指し示す指示的な連体詞である。「部分」は「全体」に対応する意味を持つ名詞である。「で」は名詞で表される原因や理由などの状況成分を受ける格助詞である。ここで対象とする「そういう部分で」は、それを構成する各要素の相互作用によってこれから見るような各種の用法が生み出されるのであるが、機能的な「そういう」や「で」の作用については深く立ち入らない¹⁾。なぜならば実質語である普通名詞「部分」が「そういう部分で」という語句において多義的であり、その多義性が大きくこの語句の用法に関わっているのではないかと思うからである。

まず、「部分」が文字通りの意味で使われる例としては次のようなものがある。

- (1) まあ今日はですね、軟派と硬派な狭間を漂いながら、アーバンクルーズ、UrbanCruse 这样一个カンジで [筆者注 (以下略) : 番組を] お送りしましたけれども、やっぱりこうねアーバンクルーズっていうことは都会を流す時は、ひとつこう自分でまるでナルシストのように酔いたいときもあるだろう。ね、音楽が云々というよりも、そういう時もあるさ。やっぱり彼女と載っている [原文のまま] ときは演出して欲しいんだよただ曲たちに。そこには極めてなんていうんでしょうかねえ、

サルの部分っていうんですかねえ（笑）そういう部分で音楽をとらえてほしい部分がありますね。軟派でいいんですね。いいかげんでもいいんですね。（http://www.freepage.total.co.jp/965/SD_991115.htm）

- (2) 今日の定期に向けての練習の中で、指揮を担当する人間として学んだことがあります。それは「管楽器の置かれている状況」が少し体感できたこと。というのは、今回、ベースはホルンと木管の至近距離で演奏しましたが、管楽器にとって「他のパートを聴くこと」がいかに難しいことか、それがよく分かりました。例えばエグモントで、ホルンとファゴットのみの部分があります。そういう部分では、2本のホルンと1番ファゴットを、バス音で支える2番ファゴットの響きがものすごく重要。（<http://www.ktroad.ne.jp/~yoji/diar9906.htm>）

(1) の「そういう部分で」は先行する「サルの部分」を指すであろうし、その「サルの部分」とは「サルの感覚」であろう。(2) の「そういう部分で」は先行する「ホルンとファゴットの部分」を指すであろうし、その「ホルンとファゴットの部分」は「ホルンとファゴットの演奏部分」であろう。「部分」に対応する「全体」が何か、即ち、「サル」や「演奏」であるといったことが限定できれば、その「部分」が示す意味を特定することができる。「部分」とはこういった抽象的な関係から演繹される普通名詞なのである。

上のように「部分」と「全体」の対応関係がはっきりしているのは実は少数で、はっきりしないものが大多数である。

- (3) ほら、最近さ、なんでもキレイキレイにしておくじゃない。ちょっと汚れるとすぐ手を洗うし。K島が子供のころは泥まみれになって遊んでたし、駄菓子屋の何つかってるかわからないようなお菓子食べまくってたし、そういう部分で鍛えられてた部分もあったのではないかと思ったり思わなかったり。

（<http://www.asahi-net.or.jp/~JX7D-KJM/diary47.htm>）

- (4) [前略] 最愛のレオ（犬ですが）亡くなってしまったのです。それから、仕事も出来ず、なにもする気がなくなって、あっという間にペットロスという精神的病になってしまいました。わかっているのです。

死というものは……。でも、感情が着いていきません。私はすべてから逃げてしまいました。でもやはり、ご夫婦の訳した本はずっと読み続けていたので、そして感覚でというか、わかっていたのですが、怠けたくてと言ったらいいか、そういう部分でわからないふりをしていました。(http://www.tcp-ip.or.jp/~hirai/otayori9805zenn.html)

(3) の「鍛えられてた部分」はどの「部分」にあったのか、また、その「部分」に対応する「全体」は何であろうか。どちらか一方でも特定できれば、もう一方を類推できるであろう。「そういう」が「K島が子供のころは泥まみれになって遊んでたし、駄菓子屋の何つかっててかわからないようなお菓子食べまくってた」ことを指し示しているであろうということは分かる。しかし、「部分」とは何か、またそれに対応する「全体」とは何であろうか、すぐには返答することができない。また、(4) の「そういう」が「私がすべてから逃げていた」ことあるいは「私が怠けたかった」ことを受けていることは明らかであろうが、「わからないふりをしていた」のはどの「部分」でなのか、はたまた、その部分に対応する「全体」とは何なのかきっぱり即答できない。

「そういう部分で」という語句の出自は明らかではないが、最近特に耳にするようになった語句の一つである。『新潮文庫の100冊』²⁾にも出現しない。2000年7月12日現在においてインターネットのホームページ上にある用例をキーワードで検索してみると次のような結果が出た。

(5) 2000年7月12日現在「そういう部分で」をキーワードとして

goo(http://goo.ne.jp)で検索

1994年12月31日以前に制作、更新されたページに登場した件数 0件

1995年12月31日以前に制作、更新されたページに登場した件数 1件

1996年12月31日以前に制作、更新されたページに登場した件数 3件

1997年12月31日以前に制作、更新されたページに登場した件数 17件

1998年12月31日以前に制作、更新されたページに登場した件数 64件

1999年12月31日以前に制作、更新されたページに登場した件数 153件

インターネットの普及率やホームページが削除や更新可能なメディアであるということとを考慮すると、この数字を鵜呑みにすることは危険であるという指摘は認

めざるを得ないが、ある程度の事実の指摘が可能かと思われる³⁾。即ち、「そういう部分で」⁴⁾はごく最近に使用され始めた語句であろうと言ってもいいのではないか⁵⁾。この新表現には今見た例以外にもいくつかの用法が見られる。本稿では、1999年12月31日以前に制作、更新されたページに登場した153例に見られた用法を網羅的に記述し、最後に各用法が何を基準に派生しているのかを考察する。

2. 状況限定

「部分」が「時」や「場所」などの状況成分を意味する用法がある。次の例では「部分」が「時」や「場合」などと交替可能である。

- (6) 昨年から先制された試合は勝利できてなかったんですが、今日は落ちてきてやれば同点にはできるなって感じていました。で、優津樹が入って攻めのパターンが増えていき、それで流れが変わってきて、いい時間帯で同点にできた。後ろから見ていてもぜんぜん不安じゃなかったですよ。ただ2-1の時に、攻めを重視してたから、逆に攻め込まれた時にがんばらないとやられちゃうじゃないですか。そういう部分では、僕が声を出して後ろでサポートできる場所はしようと思っていました。

(http://www.fujitsu.co.jp/hypertext/soccer/hypertext/report/1998/match/jfl7_10.html)

- (6)の「そういう部分で」は先行する文の言い換えである。「そういう」は「(相手に)攻め込まれた」を受け、「部分」は「時」や「場合」などと同じ働きを持つ。

次の例では「部分」を「場所」と入れ換えることができる。

- (7) たまに地方へ車で行くと、「こんなとこにシダックスが出来たんだ!」というような感じで、関東圏では、あっちこっちに出来ています。こういう大型のお店が勢力を伸ばしてんですね。KULILINは最近、カラオケに行くこともなくなりましたが、やっぱり時間があれば行きたいですね。そういう部分で発散をしたいです。

(<http://www2.justnet.ne.jp/~kulilin/P981107.HTM>)

- (8) 時間外労働について言えば、均等法を強化するために行われた女子保護規定の解消は、今回の基準法改正でなくて均等法とのセットで行われているわけで、今回は上限基準の法律上の設定というような形で許可しています。ですから、後退させているというよりは選択肢を増やしながら、食卓に並べるおかずみたいなもので、長年食べなれたものが並んでいたわけですが、これも好きだったら体に良いから食べてごらんということで別のおかずも並べてみた。ただ、そのおかずがどうも気にいらぬということでのいろいろな議論があったわけですが、そういう意味合いで我々も古いものでまだ徹底されていないところがあれば真剣にこれを徹底させる。しかし、それが実情に合わない部分があれば、そういう部分で働く人たちが保護されつつ、自由に、先ほど仕事に対して、労働時間の配分についても自分が主人公なんだという気分で仕事に向かえるような制度が、新しい選択肢として加えられ、それを使うかどうかは労使全員一致で決めてくださいと、こういう仕組みにしております。(http://www.jil.go.jp/kouen/no_13.html)

(7) の「そういう」は「カラオケ」を指し、「部分」は「場所」と読み替えることができ、「そういう部分で」は「カラオケのような場所で」という意味を表す。また、(8) の「そういう」は直前の「実情にあわない」を指し、「部分」は文脈から「場所」と解釈することができる⁶⁾。

他に、「部分」を「原因」などの状況成分と読めるものがある。

- (9) ねえ、ま、受験生ですからねえ、ちょっとそういう部分では勉強もしなきゃいけないし、でも、そういうなんかこう、気持ち的にねえ、ちょっと不安になってるしとか、そういうのもあるんでしょうけど、ねえ、まあ、中学校3年生ぐらいだったら、そうだよな、グループ交際とか言っちゃってね。(http://www2.justnet.ne.jp/~kulilin/S971227.HTM)

- (10) [前略] 最愛のレオ (犬ですが) 亡くなってしまったのです。それから、仕事も出来ず、なにもする気がなくなって、あっという間にペットロスという精神的病になってしまいました。わかっているのです。

死というものは……。でも、感情が着いていきません。私はすべてから逃げてしまいました。でもやはり、ご夫婦の訳した本はずっと読み続けていたので、そして感覚でというか、わかっていたのですが、怠けたくてと言ったらいいか、そういう部分でわからないふりをしていました。(http://www.tcp-ip.or.jp/~hirai/otayori9805zenn.html)((4)を再掲)

(9)の「そういう」は「受験生」を指し、「そういう部分では」は「受験生なので」「そういうわけで」のような理由節と同じ働きをしている。また、(10)の「そういう」は「すべてから逃げていた」ことや「怠けたかった」ことを指し、「そういう部分で」は「すべてから逃げていたので」「怠けたかったので」「そういうわけで」のような理由表現と置き換え可能である。

しかしながら、次の例から分かるように、「そういう部分で」の用法は「そんな時」「そんなところで」「そんなわけで」などの用法より限定的である。

(11) だがもはや二度とその故国には戻れぬ自分にふと気がつく、と、苦い諦めの笑いがゆっくり、こけた頬にうかぶ。そんな時、それがどうしたという捨てばちな感情が胸に湧いてくる。(遠藤周作『沈黙』)

(12) 私は躊躇していた。そういう私を見ると、少女たちは一層笑い声を高きしながら私の方へずんずん駈け下りて来た。そんなところで引り返したりすると余計自分が彼女たちに滑稽に見えはしまいかと私は考え出していた。(堀辰雄『風立ちぬ・美しい村』)

(13) 面会には来ないで欲しい、という行助の手紙で、澄江は、母親なりに、息子が現在おかれている立場と心情を理解した。来ないで欲しい、と、いってよこすからには、それなりの理由があるはずだ、と思ったのである。そんなわけで、澄江は、少年院に行こうか行くまいか、と思いついて迷っているうちに二日間をすごしてしまった。(立原正秋『冬の旅』)

(11)の「そんな時」、(12)の「そんなところで」、(13)の「そんなわけで」の代わりに「そういう部分で」を入れると不自然な文になる。(11)～(13)と(6)～(10)を比較すると、前者が時間軸に沿って事柄を描いていく描写であるのに対して、後者はそうではない。前者の「そんな時」「そんなところで」「そ

んなわけで」を含む文は、これらの指示表現によって先行文脈の時間や場所や理由などを特定しながら、時間的に新しい事柄を描いている。一方、後者の「そういう部分で」を含む文（以後「そういう部分で」文と呼ぶ。）は先行文脈に新たな展開を追加するものではなく、先行文脈で特定される状況の中で時間や場所や原因などについてさらに詳しく記述したものである。このように「そういう部分で」には状況成分のある成分に絞って記述するという用法があるのである。この用法を状況限定の用法と呼ぶ。

3. 認識限定

「そういう部分で」には、他の観点から見ることでもできるが、ある特定の観点から見るとこうだといった意味合いで用いられる用法がある。このような限定的な観点が伴う活動には、思考や判断などの認識的な活動が代表的である。

次は認識的な活動が明示的に表現された用例である。

- (14) 「[規制緩和にどう対応するか]について」規制されている部分ともう一方で[原文のまま:「一方で」の誤りか]保護されている部分があって、仲卸の定数とか小売の売買権、卸の第三者販売の禁止、そういう部分では我々も保護されていると思いますがいかがでしょうか。

(<http://www.suzuya.co.jp/oroshi/31-1.html>)

- (15) [HPについて] みんな派手で、グラフィック等、非常に気を使って作っているのが良くわかります。けど、文の基本的な書き方については結構いいかげんで、非常に目に付きます。いいページに、そういう部分で興ざめしたくないなと思ったので、文章を書く基本的なきまりで気になった所をここに書かせてもらいます。

(<http://www.koshi-lab.sccs.chukyo-u.ac.jp/~m8195033/note.htm>)

(14) の「そういう」は「仲卸の定数とか小売の売買権、卸の第三者販売の禁止」を指し、この範囲で「我々も保護されていると思う」という認識活動を表現している。(15) の「そういう」は「文の基本的な書き方については結構いい加減である」ことを指し、「(他のところには)非常に気をつけている(ので、興ざめしない)」が、この点については「興ざめしたくないなと思った」という認識

活動を表現している。

認識活動が明示的でない例では、「そういう」が指す部分に絞って思考をめぐらせると、こう判断を下せるといった意味合いで用いられる。

- (16) 俺は基本的に、男女は同レベルの存在だと思っている。自分はそう認めているつもりだし、誰かにも自分をそう認めてもらいたいと考える。もちろん、身体的な特徴とかそういう部分で差はあるし、部分的には優劣もあるだろうが。全体として「同じ一個人」としての優劣をつけたくないんだよな。ちょっと前に書いた性の話題に通じるのだが。

(http://www01.u-page.so-net.ne.jp/ca2/maoo/Diary/dd9806_2.html)

- (17) [[インターネットとマルチメディアによる都市復興]について] 具体的な話はこれから展開していきますが、地域として基幹幹線の45メガが入ってくるのは神戸だけで、ノックを地域で持つというのも神戸だけです。後はみんな大学がやります。神戸は少なくとも3月以降は、情報を載せていく器としては多分日本で最高の器になるでしょう。ポイントはその中に盛るお酒で、デジタル映像など、そういう部分でどれだけできるのか、国の実験はあくまでも国の実験ですので、できればそれに並行して、この施設ネットワークを活用してできる実習組織を早急に立ちあげて、具体的な動きに入っていきたいと思っています。(http://www.kobe-u.ac.jp/~ipc/mage/mage26/panel/panel.html)

(16) の「そういう」は「身体的な特徴とか」を指し、「そういう部分で」全体で「身体的な特徴などだけを考えると」という解釈になる。(17) の「そういう」は「デジタル映像など」を指し、「そういう部分で」全体で「デジタル映像などだけを考えると」という解釈になる。このように、このタイプの「そういう部分で」は認識の対象や範囲を限定する用法である。

他に、「迷う」や「議論をする」など、認識に至る過程における活動を示す用例もある。

- (18) 6/12のアルタで行われたライブについての感想を「お笑い」の「藤井隆」コーナーに台本の話が出ていましたが、実はわたしもそのライブに higashi さんから「台本がもらえることに成った[原文のまま]か

ら行ってみない？」と誘われたのです。このHPでいろいろと紹介していたこともあって、「どんなものなんだろう？」と思って前売りが売切れだったので当日券ねらいで行ったのです。ですがアルタについたらメールがきて「台本がもらえなかった」とのこと…。しかも当日券は立ち見になるかもしれないと受付の人に言われて躊躇ってしまいました。買い物もあるしなあ…というわけでその日は観るのをやめてしまいました。でも、もし台本があったら立ち見でも観たと思うのです。やっぱり、[ライブが] 聞こえないと、興味があってもそういう部分で [ライブを観ようかどうか] 迷ってしまいます。

(<http://www.ne.jp/asahi/diving-owarai/higashi/keijikako.html>)

- (19) ですから、日の丸がどうというよりも、むしろ日本の歴史の中でどういう見方をするかという議論は、現実にはいろいろな見方で歴史はあると思いますから、それはそれで議論をすることはいいと思いますが、日の丸や君が代がいいとか悪いとかというところは、そのことだけを議論してもしょうがない。むしろそれは歴史の見方だとか、そういう部分でしっかり議論をすべきであって、日の丸というのは非常に分かりやすいからつついっさいそちらに目が向いてしまうのですが、それはこの中で議論しても生産的ではないだろうと思っています。

(<http://www.kantei.go.jp/jp/jidaiwoninai/980501dai3.html>)

(18) の「そういう」は「聞こえない」ことを指し、「そういう部分では」は「聞こえないということを考えると」＝「聞こえないと」と同じである。(19) の「そういう」は「歴史の見方だとか」を指し、「そういう部分で」は「歴史をどう考えるかについて」＝「歴史の見方について」といった意味になる。「そういう部分で」が認識の対象や範囲を限定するところまでは先の用例と同じであるが、認識過程で「迷ったり」「議論をしたり」するところが異なる。

ここで見た「そういう部分で」文に共通する特徴は、認識の対象を限定し、それについて記述するということである。この用法を認識限定の用法と呼ぶ。また、「部分」と「全体」がそれぞれ何かという問いに関しては、「部分」に対応するものが局所的な認識の対象や範囲であるので、「全体」に対応するものはすべての

認識の対象や範囲であると考えてよからう。

4. 包含関係

4. 1 下位⇒上位：一般化

状況限定の用法では、先行文脈から特定された状況におけるある成分に絞って記述したり、認識限定の用法では、先行文脈で特定された物事に認識の対象を絞って記述するという限定的な条件が課せられているが、この節で見る「そういう部分で」はそうではない。

- (20) [個店がどのようにがんばればいいのかという質問に対して] なにか、特徴的な取り組みをしているところ、例えばポイントカードなどは、かなり魅力的だと思う。そういう部分で工夫が必要だろう。

(http://www.ssz.or.jp/keizai_f/iken2.html)

- (21) [「今堀恒雄復活東京ライブ」について] メンバーは横川タダヒコ、ライオンメリィにex-ティボグラフィカの今堀恒雄と外山明。物凄く荒っぽく言ってしまうとひねくれた歌物なんだろうが、これだけではあまり的確な表現ではないような気がする。筆者は基本的に（少数の例外を除いては）歌ものには思い入れがないのであまりのめり込みはしなかったのだが、部分的にジャズロック的アンサンブルもありそういう部分で「おっ」と思う部分もあり。

(<http://www.fastnet.ne.jp/~naotsugu/live/19980301.html>)

(20) の「そういう」は「ポイントカードなど」を指しているが、限定的に解釈すると、「ポイントカードを導入するには、工夫が必要だろう」といった読みになってしまい、どうも当を得ていないようである。むしろ「ポイントカードを導入するなどの工夫が必要だろう」という読みの方が近い。また、(21) の「そういう」は「部分的にジャズロック的アンサンブルがあった」ことを指しているが、「このライブは、(全体的にはそうでもないが、) ジャズロック的アンサンブルのところに限って言うと、『おっ』と思う部分がある」という限定的な解釈にとることも可能であろうが、「このライブは、『おっ』と思う部分があり、ジャズロック的アンサンブルのところがその一つである」という読みもまた可能である。初

めにみた(3)も同様に二つの解釈ができる例である。限定的な解釈でない読み
に絞って考えると、「そういう部分で」を境にした「そういう」の指示対象と
「そういう部分で」に導かれる表現は(22)のような下位—上位関係になってい
ることが分かる。この用法を一般化の用法と呼ぶ。

(22) ポイントカード

C工夫

ジャズロック的アンサンブル

C「おっ」と思う部分

これらは下位—上位関係を表す名詞句で表現されているが、下位—上位関係を表
す引用句の対も見られる。

- (23) 過日二組目、ようやく「夫婦を」成立させましたけれども、そういう意
味で農業に対する感覚が、今女性の立場から変わってきています。非
農家の奥さんがほとんどです。「農村ってこういうとこでなかったはず
なのだけれども、あなた嘘言ったでしょう」と、プロポーズする言葉
で言ったのだろうけれども、そういう部分で非常に「こんなはずでは
ない」と、先ほど言われましたように食品加工なり、ファームステイ
なり、そういう部分の動きが非常に全道で高まっております。

(<http://www.maff.go.jp/soshiki/kambou/kikaku/chousakai/1013h.html>)

「農村ってこういうとこでなかったはずなのだけれども、あなた嘘言ったでしょう」
という引用句は「こんなはずではない」という表現の具体的なものである。

また、「そういう部分で」の前に後続する名詞句の例示がされるものもある。

- (24) 「少女革命ウテナ」という作品について] まあ、黒薔薇編は、放送延
長のために挿入されたものであるとされていますから、本編と直接関
わるわけではないのかもしれませんが、あれが入ったことで、よりい
っそう、革命とか、人間の人生とかそういう部分で考えさせられる部
分があったと思います。(http://plaza.harmonix.ne.jp/~onizuka/utena.html)

- (25) ですから、本当に日本を愛していれば愛しているほど、世界に対して、
世界の平和に対して関心を払っていくのが本当だと思うのですけれど
も、そういう広い意味の自分の国、自分、伝統、そういう部分で大事
にしていくようなものがないと、逆に失礼になったり、相手の国を理
解できなかつたりする部分が出てくるのではないかなと。

(<http://www.hucom.tp.titech.ac.jp/~matsuda/Monbu/Kyouka9.html>)

(24) の「革命」「人間の人生」は「考えさせられる部分」の一例であり、(25) の「自分の国」「自分」「伝統」は「大事にしていくようなもの」の一例である。

因みに下位－上位関係を編成するものには「そういう部分での」という連体的な表現もある。

(26) 営業努力の視点ではないかということですが、一般の民間でも公正競争との関係で比較広告をどう扱うかというのはすごく議論のあるところで、私どもも事業をやっていて、そのことに躊躇して、比較すると何か引っかかるんじゃないかということで、他の事業体と比較するのはなかなかしない。日本の場合はそういうところがすごくあると思うんです。私は、郵政省が営業努力を怠っているというよりは、先ほどの点で言うと、そういう部分での引っかかりがあってなかなか比較しないとか、あるいは、民間の方も郵政省の小包と比較したときに何か問題を起こしたらまずいから、あまりそういうことについて宣伝しないとかいうふうなことがあるんじゃないかと思うんですね。

(<http://www.epa.go.jp/99/d/19990803d-koukyou.html>)

(27) …とすると、美奈子さんも、聞く人のことを考えて作るっていう部分はかなりあるんですか？ よく考えるんですが、例えば、歌を歌うのも自分が気持ちが良いように歌うのと、人が聞きやすいように歌うとのとは違ったりするでしょう。アルバムを作る上で、そういう部分での葛藤ってあったりします？

(<http://member.nifty.ne.jp/fohkubo/untitled.htm>)

「一般の民間でも公正競争との関係で比較広告をどう扱うかという引っかかり」や「歌を歌うのでも自分が気持ちが良いように歌うのと、人が聞きやすいように歌うとのとは違ったりするといった葛藤」などのような「という」や「といった」が使われる内容節に非常に似通っている。そこでは、後続する被修飾名詞句が内容節を名付ける役割を担っている。つまり、内容節を上位概念の名詞句で言い換えるのであるが、それによく似た働きが「そういう部分での」にあると考えられる。

ここまでは「そういう部分で」もしくは「そういう部分での」が使われる表現の環境を観察し、その前後に下位—上位関係の表現が置かれることを見た。換言すると「そういう部分で」文にはそれまで述べたものを上位概念で言い換えるという談話の機能があり、いわば先行文脈を一般化する働きがある。また、「部分」と「全体」はそれぞれ何なのかという質問に対しては、部分的なものは「そういう部分で」の前に言及された部分であり、全体的なものは「そういう部分で」に後続するものであるというのがふさわしいように思われる。

4. 2 上位⇒下位：具体化

前小節の「そういう部分で」はその前後に下位—上位関係の編成をとることを見たが、逆の編成をとる例も見られる。つまり、「そういう部分で」の前に一般的な事柄を述べ、その後に具体的な事柄を述べる用例である。

- (28) そこで [=全ての邪念を捨てなければいけないときに] スイッチが入るのがプロであって、色んなものを引きずって邪魔されて集中力を乱すのがアマチュアというか、それはどういうところから来るかっていうと、私生活とか本人の普段の心がけとか、そういうのも影響すると思うんですけど。そういう部分で自分がレースをやっているときに、ある瞬間からはもう、全て自分を形成する一部分じゃないというか、そういう事が走り方に出てて、荒いというかアグレッシブだったんで、皆んないい意味で取ってくれましたけど (笑)

(<http://www.mnet.ne.jp/~akikazz/hibi/jwave.html>)

- (29) ねえ、こういうお手紙いただくとうそい、安心するというか、うん、なかなかちょっとねえ、ホントに自分だけじゃないから、それも心配だったしねえ、あとは、腰がまあ、元々あんまり強くなって、前からちょっと病院に通ったりしてたんですけど。ま、でもね、やっぱりお腹が、大きくなるにつれ、もうホントに腰が悪い…妊婦さんじゃなくても、痛くなるのにも関わらず、[症状は] 弱いところに出てくるじゃないですか？ だからね、そういう部分でちょっと [腰に痛みが] 出てきたのかな？ という感じだったんですけども。

(<http://www2.justnet.ne.jp/~kulilin/P990911.HTM>)

(28) の「そういう」は「そこでスイッチが入るのがプロであって、色んなものを引きずって邪魔されて集中力を乱すのがアマチュアである」という一般的な記述を指すであろう。「そういう部分で」文は「自分がレースをやっているときに、ある瞬間からはもう、全て自分を形成する一部分じゃないというか、そういう事が走り方に出てて、荒いというかアグレッシブだった」という具体的な事柄を表している。また、(29) の「そういう」は「妊婦さんじゃなくても、[症状は]弱いところに出てくる」という一般的な記述を指すであろう。「そういう部分で」文は「[腰に痛みが] 出てきた」という具体的な事柄を表している。

この用法は「そういう部分で」をはさんで、その前後にそれぞれ上位一下位関係の事柄を置く環境で成立するが、その場合の「そういう部分で」文の機能は先行文脈で述べた一般的な事柄から特定の具体的な事柄を導くというものである。この用法を具体化の用法と呼ぶ。また、「部分」と「全体」はそれぞれ何なのかという質問に対しては、部分的なものは「そういう部分で」に後続する具体的な事柄であり、全体的なものは「そういう部分で」の前に言及した一般的な事柄であると考えることができる。因みに、前小節で「そういう部分での」に特徴的な下位—上位関係の用例を見たが、「そういう部分での」には逆の上位一下位関係の用例は見あたらなかった。

5. 主題化

この節では、状況や認識範囲を限定するわけでもなく、包含関係とも無関係な「そういう部分で」の用例を見る。

- (30) [「東京下町殺人暮色」という作品について] 下町が舞台で、少年が主人公というのが、いかにも宮部みゆきという感じだけど、物語の始まりがいきなりバラバラ殺人事件というのが意外だった。そういう部分で話の暗さが鼻につくし、推理小説自体としては面白くなかった。

(<http://www.asahi-net.or.jp/~NR9H-ATM/Books/9705.html>)

- (31) 僕としましては、やっぱり、男なんで、変な不信心（笑）、とか与えないように、なんかそういう部分でちゃんと信頼してもらえれば、いい

などかと思ってました。(http://www2s.biglobe.ne.jp/~kaeru/butai3.html)

(30) の「そういう」は「物語の始まりがいきなりバラバラ殺人事件というのが意外だった」ことを指しているであろう。この「そういう部分で」は状況限定的な解釈である「物語の始まりがいきなりバラバラ殺人事件という意外な状況で」といった解釈や認識限定的な「物語の始まりがいきなりバラバラ殺人事件であるという観点で」といった解釈にはならない。むしろ「物語の始まりがいきなりバラバラ殺人事件である」ことが原因で、「話の暗さが鼻につく」といった解釈になる。(31) の「そういう」は「変な不信感とか与えない」ことを指しているであろう。この「そういう部分で」は「変な不信感とか与えない状況で」といった解釈や「変な不信感とか与えろと考えると」などといった解釈にはならない。むしろ「変な不信感とか与えない」ので、「ちゃんと信頼してもらえればいい」という解釈である。

(30) (31) は明らかな因果関係を持たない例であるが、次のように明示的な因果関係を持つ例もある⁷⁾。

(32) まあ私はね、最近は満員電車ってのは乗ってないからちょっとそういう部分で忘れちゃってるのかも知れませんが、私も、高校の時に、あの、バスとか、あの、電車とかのね、で通学してましたけど、[痴漢に] あいましたよ。やっぱり怖い!

(http://www2.justnet.ne.jp/~kulilin/P980530.HTM)

(33) NGOは、ODAを利用した活動と違い小回りがきくので、そういう部分でNGOとODAとの連携も、JICAの課題になっていますが。

(http://www.jica.go.jp/jicanews/jcns9505/jcns9505-h01.html)

(32) では「私」という実体 (entity) が「最近満員電車ってのは乗っていない」という属性を持ち、それが「(満員電車のことを) 忘れちゃっているのかもしれない」という判断の根拠となっている。(33) では「NGO」という実体が「ODAを利用した活動と違い小回りがきく」という属性を持ち、それゆえ「ODAとの連携させることはJICAの課題になっている」という判断に繋がっている。

判断文には (30) (32) (33) のような真偽判断だけでなく、価値判断も可能で

ある⁸⁾。

- (34) [F 1 オーストラリアグランプリについて] 毎度ながら、実況について不満を持ったりする。高木虎之介や中野信治がリタイヤして残念がる気持ちはよく分かる。しかし、ビルヌーブ（ウィリアムズ）とフィジケラ（ベネトン）がバトルを始めて、なかなかいい場面が見られはじめたというのに、全然そちらを実況しない。結果として決定的な瞬間は現れず、大きな問題とは成らなかったし、バトルも長く続いていたから良かったものの、やっぱり、もう少しそういう部分で気を付けてほしいものだ。（<http://www.angel.ne.jp/~chlin/fl/fl-1st.htm>）

- (35) キリスト教とかも宗教戦争とか権力争いとかはあるわけで、全ての面で素晴らしいとは言いきれない。でも、それを信じる人の心は純心で美しいと思う。そういう部分で、宗教というのは良いものだあとシミジミ考えた朝なのでした。

（<http://www2s.biglobe.ne.jp/~uyouyo/diary/diary1999/diary99044.html>）

(34) では「ビルヌーブ（ウィリアムズ）とフィジケラ（ベネトン）がバトルを始めて、なかなかいい場面が見られはじめたというのに、全然そちらを実況しない」ことを根拠に、「もう少し気をつけてほしい」という価値判断をしている。

(35) では「それ（＝宗教）を信じる人の心は純心で美しい」ということから「宗教というのは良いものだ」という価値判断をしている。(31) も「そういう部分で」文は価値判断を表している。

この用法の「そういう部分で」文は、その先行文脈で因果関係を明示しない場合でさえ、なんらかの因果関係が成り立つところが特徴的である。その背景には、ある属性 *a* を持つ実体 *E* に関して *b* という判断を下す時は常に *a* → *b* の関係が成り立つからである。「そういう部分で」文が判断文であるとする、「そういう部分で」という語句は先行文脈で記述した属性 *a* を持つ実体 *E* を主題に取り上げるという機能があると考えられる。例えば、(30) (31) は次のような言い換えが可能であり、かつ一番原文に近いように思われる。

- (30) 物語の始まりがいきなりバラバラ殺人事件であるので、そんな宮部みゆきの小説は、話の暗さが鼻につくし、……

- (31) '変な不信感とか与えないので、こんな僕としてはちゃんと信頼してもらえればいい……'

この用法を主題化の用法と呼ぶ。

6. 認知的な観点から見た体系

これまで「そういう部分で」文の用法を網羅的に記述してきた。列挙すると文字通りの用法以外に次のような用法がある。

(36) 「そういう部分で」の用法

- (a) 状況限定
- (b) 認識限定
- (c) 一般化
- (d) 具体化
- (e) 主題化

これだけ見ると、一般化と具体化は対照的な用法であり、主題化は他の用法から乖離しているように思える。一見一貫性のない印象を与えるが、これらの用法の関連性を統一的に説明する方法があるのであろうか。あるとすれば「そういう部分で」という一つの語句が如何にしてこのような多義性を帯びるようになったのであろうか。

認知言語学では人間が有する認識能力に着眼することによって、次のような言語現象を説明しようとする。(山梨 1995)

(37) 類似性 (メタファーリンク)

- (a) くぎの頭
- (b) 頭に従う
- (c) 売り上げの頭をはねる
- (d) 頭から相手にしない

(38) 近接性 (メトニミーリンク)

- (a) 人夫の頭をそろえる
- (b) 頭を刈る
- (c) 頭がいい

(d) 頭に入る

「頭」が文字通りの身体部位を表すのではなく、(37)の「頭」は類似性(メタファーリンク)の認識能力によって意味が拡張されたものであり、(38)の「頭」は近接性(メトニミーリンク)の認識能力によって意味が拡張されたものである。修辞学ではこのような意味の拡張による表現をそれぞれメタファー、メトニミーと呼ぶ。(37)は身体的部位の「頭」の語義から抽出される「上にあるもの」という意味を持つという点でどれも類似している。「頭」は(37a)では物の上部、(37b)では社会の上の人、(37c)では札束の上前、(37d)では話の最初を表している。(38)の「頭」はもっと経験的あるいは慣用的に隣接した意味を表す。「頭」の意味は、(38a)のようにそれを持つ「人間」であったり、(38b)のようにそこを場所とする「髪」であったり、(38c)のようにそれが持つ機能である「知能」であったり、(38d)のように器としての場所であったりする。

「部分」とは全体をいくつかにわけたものの一つであるが、総体が具体的で、かつ、その指示対象が明示的であるような「そういう部分で」の用法を文字通りの用法と定義することにする。具体的な指示対象を持つものの一部分は(39)のようにすぐに同定できる。(1)や(2)の「部分」もそうである。

(39) 全体 部分

(a) 身体 頭、手、足など

(b) 文章 段落、文、語句など

総体が抽象的になると、その指示対象の示す範囲をはっきり線引きするのが難しくなる。「そういう部分で」の状況限定的な用法はその一つである。全体と部分の関係を状況に当てはめると、「全体」はすべての状況成分の総体に、「部分」は個々の時、場所、原因などに対応する。この「部分」の指示対象の求め方は、ちょうど類似性の認識能力によるものである。同じように、認識限定的な用法も類似性の認識能力によって求めることができる。人間の認識範囲全てを総体とすると、「部分」は局所的な認識範囲、つまりある観点である。また、具体化の用法も同様に類似性の認識能力が関与している。「そういう部分で」文に先行する文脈に表された一般的な事柄を全体とすると、「部分」はその特定の具体的な事柄を指す。総体から「部分」の指示対象を求めるという類似性の認識能力によっ

て、文字通りの用法が (40) のような三つの用法に拡張するのである。

(40)	全体	部分
(a) 状況限定:	全ての状況成分	特定の時, 場所, 原因など
(b) 認識限定:	全ての認識対象	局所的な認識対象
(c) 具体化:	一般的な事柄	具体的な事柄

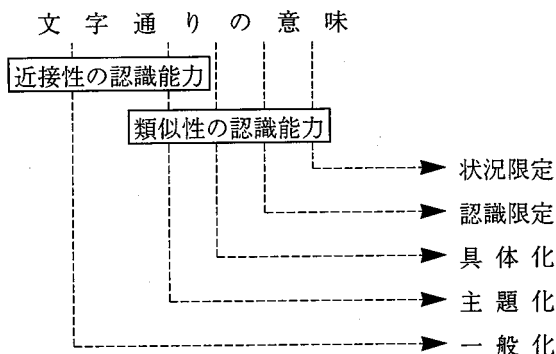
一方、一般化の用法や主題化の用法は、上のような単に類似性の認識能力から拡張したものではない。一般化の用法では「そういう部分で」文が一般的な記述であり、先行文脈が具体的な記述であるので、総体から「部分」を求める方向と逆である。また、主題化の用法では「そういう部分で」文はある実体についての判断文であり、先行文脈もある実体の属性を記述したものなので、総体から「部分」を求めるという単純な認識作用ではなさそうである。となると、文字通りの用法が経験的あるいは慣用的な結びつき、つまり、近接性の認識能力によってこれらの用法に拡張したものと考えることができるであろうか。

具体的な事柄を基にして一般化を図るということは具体的な個別の事柄を経験や慣習に照らし合わせて普遍的な事柄を導くことである。その過程には (38) の「頭」の意味が人間の経験を基に拡張したものであったように、近接性の認識能力が関与していると考えることができる。その中でも (38a) のような《部分：全体》という近接性は代表的なものであり、一般化の用法はまさに近接性の認識を言語化したものなのである。

また、主題化の用法では先行文脈と「そういう部分で」文がそれぞれある実体の属性とその属性を持つため導き出される結論的な判断を描写する。意識の流れに沿って、この用法をたどると、先行文脈のところである実体の属性記述がくる。そして「そういう部分で」という語句のところでその属性記述を持つ実体を主題化し、「そういう部分で」以降で判断を下すといった意識の流れが捉えられる。この流れを便宜的に先行文脈から「そういう部分で」までの前半と「そういう部分で」からその文の終わりまでの後半の二つに分ける。実体は属性の集合体であると考えられるので、前半は局所的な属性から属性の集合体である実体に向かう。この認識は近接性の認識能力、その中でも典型的な《部分：全体》の認識能力によるものである。後半は属性の集合体である実体からそれについての判断、つま

り一種の属性に向かうわけであるから、こちらは類似性の認識能力が働いていると考えることができる。結局、主題化の用法は近接性の認識能力と類似性の認識能力の二つの認識能力が働いている用法なのである⁹⁾。

(41)



まとめると (41) のように図で示すことができる。振り返ると「部分」という語はもともと「全体」に対応する抽象的な関係概念を表す語である。「全体」が抽象的なものになると、さらにそれに対応する「部分」は抽象的なものになる。これが類似性の読みに通ずる。また、「部分」という概念は常識的に本体を伴うものである。これが近接性の読みに通ずる。「部分」はこのような二面性を持つために、「そういう部分で」には一見無秩序だと思われる用法が見られたのである。

注

- 1) 「そういう」は連体詞であり、指示的な機能を持つことは一般の認識であろうが、筆者の知る限りこの形式を中心的に扱った研究はないようである。また、助詞「で」の用法に関しては国立国語研究所 (1951) を参照されたい。
- 2) 『CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊』新潮社、1995 年
- 3) パソコンなどのいわゆる IT 関連製品の普及率に世代間の格差があることはよく指摘されている。(例えば 2000 年 8 月 27 日 (日曜日) 付け日本経済新聞) このことか

らもこのデータが日本人の言語生活を正確に捉えているとは到底言えない。また、インターネット上のデータの保存性が悪いことや、サーチエンジンの信頼性に問題があることなど(田野村2000)を考えると尚更である。しかし、インターネットによるデータ収集には、①用例の効率的な収集方法であり、②用例の量的分布を調査でき、③日常的なことば遣いの実態を調査できる(ibid.)という利点がある。このことを考えると、ここで対象とする語句「そういう部分で」は日常的に使われる言葉であり、他のメディアでの収集が容易ではないという状況では、インターネットによるデータ収集は指摘されうるディメリットを補って余りある意義があると思われる。

- 4) 1999年12月31日以前に制作、更新されたページの中で、他に「そうゆう部分で」1件、「そう言う部分で」1件、「そーゆー部分で」1件、「そーいう部分で」1件、「そういった部分で」32件、「そう言った部分で」2件が検索された。
- 5) 検索された用例は特に日記、インタビュー、議事録や報告などの文体のものがほとんどであった。
- 6) 「実情にあわない部分がある」といった表現に現れる「～部分がある」という語句に関しては特に本稿では扱わないが、最近よく使われる表現の一つである。
- 7) 対話では「それで」のように用いられる「そういう部分で」の用法がある。

TAKA: それは、いくら経験しても当たり外れたりするよ。このぐらい[レコードを]宣伝したからこのぐらい売れるだろうなんて思っても、全然売れなかったり。経験則ではこういうのって出来ないでしょ。だけど自分も営業やってきたから、どこに行けば話がスムーズに伝わるのかなっていうのはわかってきたよね。まあ人脈もあるし。

TAGU: そういう部分で、「行けるかな」と思った?

(<http://www.ntv.co.jp/tko.rockin/HBJ96/018/FUJ/int2.html>)

永野: やっぱ、今のうちに3つの専攻系としてシステムだの、組織が出来上がっちゃうというのはね良いのか悪いのか、問題だと思うんですけどね。要するに、誰もがどこかに所属していて、ほとんども個々の先生から見れば立場は安定しちゃってるわけですね。そうすると自分の所属する専攻の研究とか学問分野なりこれからどうしていくかっていうような議論はあまり活発にあがってこないようになりやすいのかな、っていう心配はありますね。有志だけ集まってやっていたほうがまだ意欲的な学科ができるような気がします。

岡本: そういう部分で現実になにか起こりつつある、

(<http://dolphin.c.u-tokyo.ac.jp/~otss/Interview/nagano>)

どちらも「そういう部分で」を「それで」と入れ換えても差し障りがない。つまり、

相手の言及したことを受けて、自分で結論部分を先取りするような使い方である。
 しかしながら、使用条件は、結論を導く「それで」よりも厳しいようである。

- 8) 真偽判断および価値判断に関しては益岡 1991 を参照のこと。
- 9) 主題判断の用法では近接性と類似性の二つの認識能力が関与しているが、認識の順番は近接性の認識能力が先で類似性の認識能力が後である。経験的に関連づけている認識と演繹的に関連づける認識を比べると、前者の方が認識のレベルが浅く、後者の方が深いはずである。このようなことが認識の序列に関与しているようである。

参考文献

- 国立国語研究所 1951『現代語の助詞・助動詞』秀英出版
 田野村忠温 2000「電子メディアで用例を探す」『日本語学』19 明治書院
 益岡隆志 1991『モダリティの文法』くろしお出版
 山梨正明 1995『認知文法論』ひつじ書房
 Lakoff, George. 1987. *Women, Fire, and Dangerous Things*. Chicago: The University of Chicago
 (邦訳 池上嘉彦・河上誓作他訳『認知意味論』紀伊国屋書店、1993 年)

〈キーワード〉類似性（メタファー）、近接性（メトニミー）、多義性、「そういう部分で」

Human Cognition of Metaphors and Metonymies and the Polysemy of *Soo-yuu-bubun-de*

Hitoshi NAKATA

This paper explores a phrase *soo-yuu-bubun-de*, which has recently been used more often among people in the spoken Japanese language. The phrase is composed of mainly three parts: an adnominal adjunct *soo-yuu* which contains a demonstrative adverb *soo*, a common noun *bubun* meaning 'a part,' and an oblique case marker *de*. Although meanings might be produced in a synthetic way, the meaning of the phrase owes a lot to its noun *bubun*. Observing the 153 examples found on the Internet, five usages, except the literal usage, are labeled by its noun's meanings. And it is revealed that each usage is linked with others by the human cognition of metaphors and metonymies.